

群馬県青少年赤十字の 現状と課題



日本赤十字社群馬県支部

青少年赤十字の現状（令和元年度）

群馬県の加盟率 94.9%（全国1位）

加盟校 559校

※小中高の公立校は100%加盟

▼令和元年度 新規加盟校

ぐんま国際アカデミー中高等部

(1) 全国の加盟校数 約1万4,400校

(2) 全国のメンバー数 約340万人

(3) 全国の加盟率 34.9%

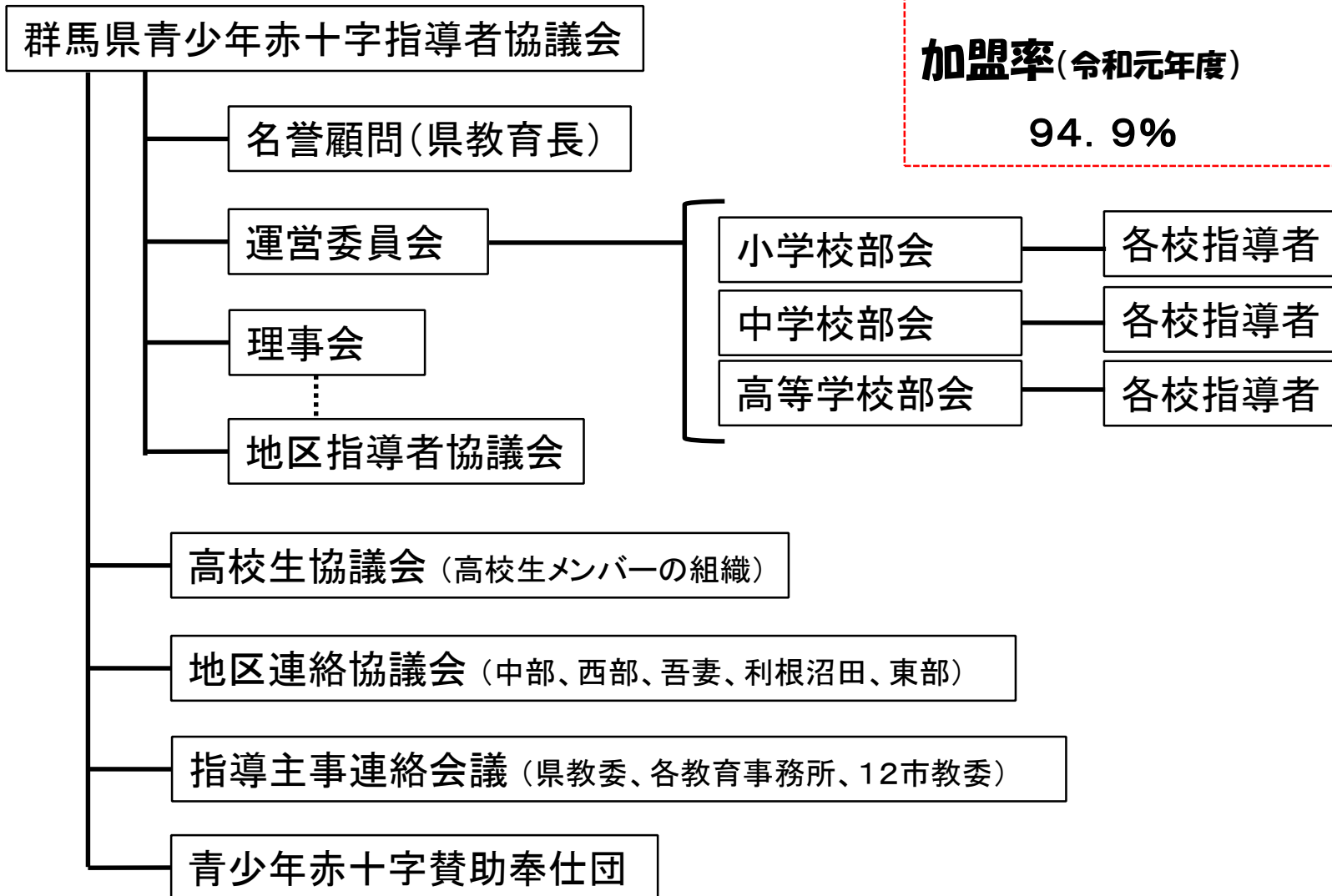
群馬県の青少年赤十字組織

加盟校(令和元年度)

559校(小中高)

加盟率(令和元年度)

94.9%



青少年赤十字の目的

日常生活の中での実践活動を通じて、
いのちと健康を大切に、地域社会や
世界のために奉仕し、世界の人びと
との友好親善の精神を育成すること

- ⇒ 人道(いのちと健康、親切、仲良く
→ **優しさ、思いやり**)の実現

「青少年赤十字」の実践目標

健康・安全

- ・ いのちと健康を大切にする力を養う
(いのちとけんこう)

奉仕

- ・ 人間として社会のため、人のために尽くす責任を自覚し、手助けができる力を養う(しんせつ)

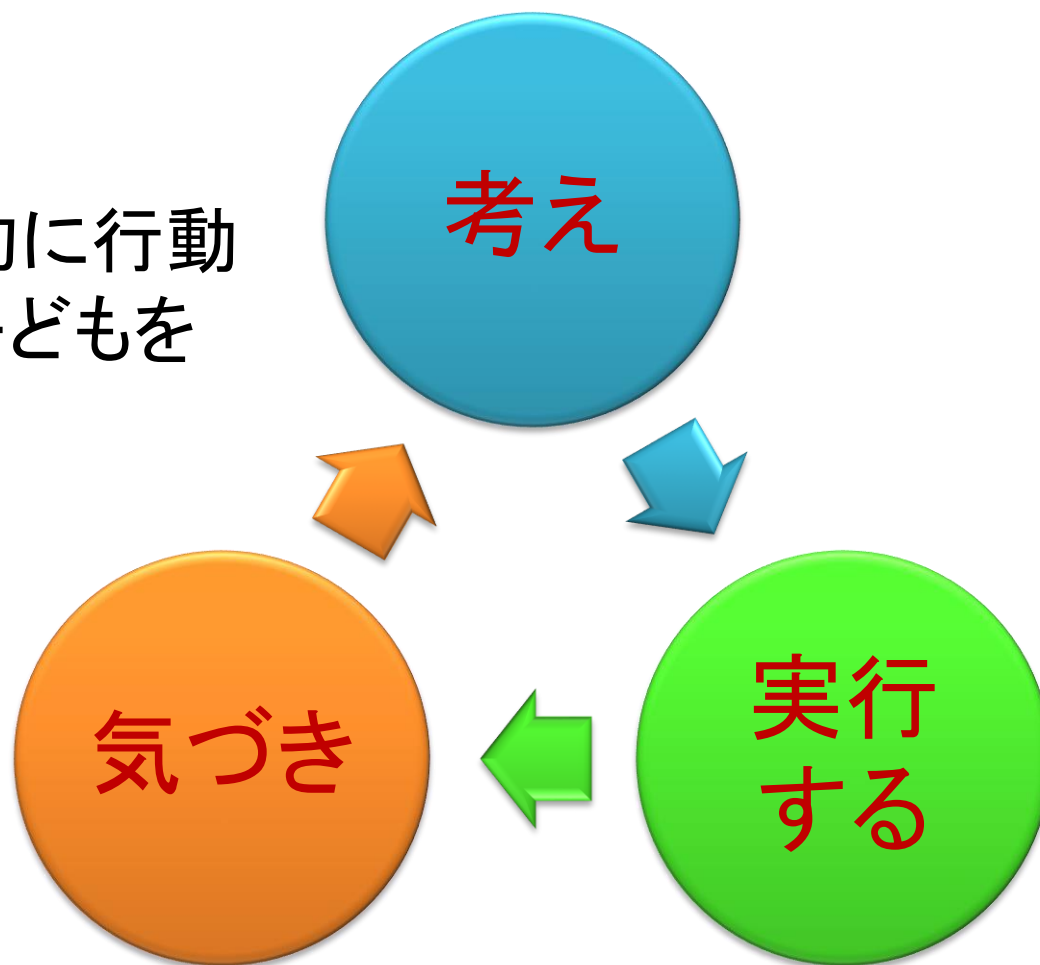
国際理解

・親善

- ・ 世界が抱える問題に関心をもち、世界のことを正しく知り、仲よく助け合う精神を養う(なかよく)

「青少年赤十字」の態度目標

主体的に行動
する子どもを
育てる



「青少年赤十字」と新学習指導要領

育成すべき資質・能力の三つの柱

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

どう学ぶか

「主体的・対話的で深い学び」

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

「青少年赤十字」と新学習指導要領

「生きる力を育む」

- ① 思考力 判断力 表現力の育成
- ② 学習意欲の向上（学びに向かう力・人間性）
- ③ 問題解決的学習 体験的な学習
- ④ 道徳教育、健康安全教育

これらの**力**を学校生活の全教科・領域・行事などで育てる
（主体的・対話的で深い学び）

→ JRCとめざすところは同じ：

気づき・考え・実行する（主体的に行動する子どもを育てる）

学校教育と青少年赤十字

- ① アクティブ・ラーニング（課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習）の視点

⇒ すでに青少年赤十字が先進的に行う

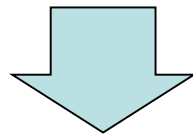
- ② 学校教育と青少年赤十字との関わり

ボランティア教育、人権教育、環境教育、食育、
国際理解教育、情報教育、伝統や文化の教育、
学校安全教育、特別支援教育、キャリア教育 etc.

日ごろの学校生活をJRCのフィルターを活用して
評価することもできます。

「青少年赤十字」の特徴的な手法

- ◆先見（先を見通して行動できる態度）
- ◆ボランティア・サービス（VS）による問題解決
⇒ニーズに気づくこと
- ◆指示のない生活（掲示板の活用）
- ◆待ちの姿勢
- ◆「人道の4つの敵」の克服
(利己心、無関心、認識不足、想像力の欠如)



主体的に行動する子どもの育成

青少年赤十字防災教育プログラム 「まもるいのち ひろめるぼうさい」

防災教育の達成目標

まもるいのち

自分のいのちを守る力を身につけること。

ひろめるぼうさい

学校、地域、家庭に防災を広めることで、防災意識を高め、周りのいのちを救うこと。いのちの大切さ、思いやる心を育てること。



青少年赤十字防災教育プログラム 「まもるいのち ひろめるぼうさい」

- ① 自然災害から自分の命は自分で守る。
- ② 家庭や学校、地域に対して防災意識を広め高める。
- ③ 思いやり、優しさ、命の大切さを養う。



1コマ 40～50分の展開案（指導展開）が付いているので、使いやすい。 ⇒ **授業で使える教材**

* テキストには、DVD(映像)やCD(Word、一太郎の指導案データ)が添付されており、そのまま活用することも、教員がアレンジして活用することもできる。

* 小学生用(1～3年)、小学生用(4～6年)、中学生・高校生用の3バージョンを収録

日本赤十字社が取り組む社会課題

ビジョン策定の前提となる赤十字の使命

基本原則

赤十字国際会議の決議

日本赤十字社法

ミッションステートメント

赤十字の使命

社会環境の変化

人口構造の変化
人口の偏在とインフラの老朽化
格差の拡大
気候変動
グローバル化
技術革新
行政・NPO等の動向

社会環境の変化

長期ビジョン

日赤への期待

日本赤十字社への期待

日赤に期待する活動
日赤に支援してほしい対象
日赤ボランティアに期待する活動
日赤に期待する今後の姿

日本赤十字社が今後10年間で重点的に取り組む社会課題の設定

日本赤十字社が取り組む社会課題

災害や紛争から人々が守られる社会づくり



- 多発する自然災害や紛争、感染症による犠牲者支援
- 災害に強い地域づくり

人々の健康・福祉を支える地域づくり



- 少子高齢化等社会変化を背景とした地域課題の解決
- 超少子高齢社会における医療・福祉サービスの向上
- 人々の健康増進

互いを思いやり、助け合い、尊重し合う社会づくり



- 多様な価値が共生する時代に、人道的な価値が理解され、共有され、共感される社会づくり

日本赤十字社が取り組む事業戦略

戦略3

多様化が進む社会における人道の輪の拡大

— 多様な価値観が共生し、「互いを尊重し、助け合う」社会へ —



1

豊かな心をもった青少年の育成強化

- これからの**教育現場のニーズ**に即した「青少年赤十字」活動の再編
- 「不登校」や「いじめ」等の**学校が抱える問題解決の一助**となる人道教育の展開
- **地域社会とのつながりを体感できる**新たな「青少年赤十字」活動の導入

本県の課題

<加盟率日本一として誇れる活動内容の充実と向上>

- 防災教育プログラムの活用率向上に向けた取り組み
- 実践例の共有による活動内容の向上
- 特別活動や道德教育と紐づけた(意識した)体験学習
- オンラインを活用したJRCの新たな取り組み

<指導教員の確保と指導力の向上>

- JRC主任教員(高校では部活顧問)の異動による連続性の確保
- 指導者講習会の「参加しやすい体制づくり」や「魅力ある内容(授業やHR、特活等に使える講座)」の醸成
- 県TCへのスタッフ参加を推進と、参加したことによる変化を学校内でフィードバックし、活動へどう生かすか
- 地区TC開催で指導者間の交流と、指導者の活躍の場を図る

本県の課題

<指導教員の確保と指導力の向上>

- 防災教育プログラムを活用することで、JRCの視点を活かす指導の醸成
- 県教育委員会をはじめとする行政機関との連携と協力体制の充実

<その他>

- 校長会でJRCの説明や情報交換の場を設け、管理職への理解促進
- 「作文」「ポスター」コンクールを活用し、JRCを考える機会の提供
- 幼保用の防災教育教材を小中高の児童・生徒にも普及し、小中高生が幼稚園や保育園へ活動の場を広げるなど、地域活動へ発展した防災教育の取り組み

学校全体で取り組めること、
学級の中で取り組めること。

JRC活動は、

色々なところにつながり、潜んでいます。

いざというときに行動できる子どもたちを

育てるため、JRCを有効に活用してください！

